



Profile

「メシが食える大人に育てる」という理念のもと、「作文」「読書」「思考力」「野外体験」を主軸にすえた学習塾「花まる学習会」を設立。保護者などを対象にした講演会は、参加者が年間3万人を超える。著書に『伸び続ける子が育つお母さんの習慣』（青春出版社）など。

● 自著を語る

BOOK

『メシが食える大人になる！
よのなかルールブック』

日本図書センター 1404円
☎03-3947-9387

学習塾代表/NPO法人子育て応援隊むぎぐみ理事長

高濱正伸 / Masanobu Takahama

厳しい世の中を
生き抜くための50のルール

世の中を生き抜く力

本書は、子どもたちが「メシが食える大人になる」ために、知っておいてほしい50の大切なことをルールとしてまとめたものです。

これは、私が学習塾を立ち上げたときからずっと伝え続けてきたことで、きれいなことではない、厳しい世の中を生き抜いていくすべを子どもの頃からしっかりと学ぶべきと考えているからです。というのも、今の大人こそが、まさにここに書かれているようなことができなくて、苦しんだり、孤独になったりしているからにはかなりません。

そもそも私がこの仕事を始めた理由も、そんな社会的な引きこもりを多く生み出している今の教育の姿に疑問を持ったからです。つまり、知識偏重で偏差値の高い学校に合格させることが教育ではなく、社会に出てメシが食えるようになることを教えるのが教育の責任なのです。

本当に自立するためには

今、文科省でも「生きる力」ということばを使って、ようやく子どもの自立する力を育もうとしています。でも、本当に自立するには、社会は正しいことばかりで成り立っているわけではなく、それを理解した上で、その時々々の決断を自分自身ですていく力を身につけることが必要になります。

自分に合わない人がいるのは「世の中の当たり前」だということが分からないと、文句ばかりいう人を量産する社会になってしまいます。

ですから、人生で嫌なことに直面しても乗り越えられる視点を身につけることが「自立」へのスタート地点だと分かることが重要です。その哲学を学ぶ一歩目として、本書を活用してもらえたらと思います。

大人が読んでも思い当たる

今回、こうしたメッセージをできるだけ多くの人に届けるために大事にしたのは、平易なことばやイラストの解説を入れるなどの工夫をしたことです。

また、ここに出てくるルールは、昔ながら家庭のしつけとして言われてきたことがほとんどですから、大人が読んでも思い当たる節や役立つところがあるのでないでしょうか。

実際、経営者仲間と自分たちが出している本について批評し合うことは少ないですが、こちらには大きな反響があつて驚いています。社員教育などで同じような壁にぶつかっているのかもしれないですね。

中には、「自分のことばで話せる人になる」のように、ある年齢にならないと難しいルールもありますから、折に触れて読み返したり、家族で議論したりすることで、そのことばの持つ意味を深めていってほしいと思います。

何より本書は、私の視点なので、子どもたちには自分で生きるためのルールを作れるような大人に成長していつてもらいたい。そうした意味で、学校の先生方にも自分に響くことばがありましたら、ぜひ子どもたちに伝えてあげて欲しいです。